

編集後記

暦の上では立春ですが、まだまだ寒い2月3日に本編集後記を執筆しています。2025年は立春が2月3日になり、その前日である2月2日が節分という珍しいことになりました。立春は太陽の黄経（太陽から見た地球の位置を表す角度）が315度になる時点とされており、天文学的な計算によって稀に節分が2月2日になるそうです。節分の行事である豆まきは、その年の邪気を払い、福を呼び込む意味があります。読者の皆さんも豆まきをされたでしょうか。下水道事故など暗いニュースが多い昨今、是非福を呼びたいですね。

さて、今回の学会誌 JSPEN Vol.7 No.1は、総説1編、原著論文1編、臨床経験1編、症例報告2編、学会参加記4編、報告記6編と盛りだくさんの内容となっています。どの報告も大変勉強になる内容と思いますが、中でも私の一押し論文は、「嚥下障害患者に対するエネルギー量を増加させた嚥下調整食（つるん食）の導入は経口摂取への移行を促進させる」という齋藤先生らによる原著論文です。選考理由としては、嚥下食だけで高いエネルギー量を賄うのは難しいという従来の概念を覆す形でつるん食を開発され、更に実際の臨床現場で嚥下障害症例に導入した結果、3食経口摂取者数を有意に増加させた点です。後方視的観察研究ではありますが、Propensity Score Matchingで患者背景を丁寧に揃えた上でつるん食群と従来食群の2群間比較を行っており、嚥下障害症例に対するつるん食の臨床的有用性が期待される内容であり、今後は前向き介入研究での更なる検証が望めます。

また学会参加記では、欧州臨床栄養代謝学会（ESPEN2024, ミラノ）と国際栄養士会議（ICND2024, トロント）への参加状況が報告されました。筆者もESPEN2024のポスターセッションで発表しましたが、日本から多くの若い方がESPENやLLLに積極的に参加している状況を目の当たりにして、とても頼もしく感じました。今回の参加記からも現地の様子が良く理

解できると思われ、海外で発表されるJSPEN会員が益々増えることを期待して、編集後記とさせていただきます。

2025年2月吉日

e-journal「学会誌 JSPEN」
編集委員会

独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター
消化器内科

長沼 篤



編集委員会

委員長：亀井 尚

副委員長：千葉正博

編集委員：天野良亮 石橋生哉 井田 智

神谷貴樹 立石 渉 長沼 篤

中山真美 森實敏夫

顧問：鍋谷圭宏

学会誌 JSPEN Vol.7 No.1

令和7年2月28日発行

一般社団法人 日本栄養治療学会

〒103-0022

東京都中央区日本橋室町4丁目4-3

喜助日本橋室町ビル4階

TEL：03-6263-2580 FAX：03-6263-2581

MAIL：jimukyoku@jспен.or.jp

ジャーナル制作 中西印刷株式会社

©2025 by Japanese Society for Parenteral and Enteral Nutrition Therapy